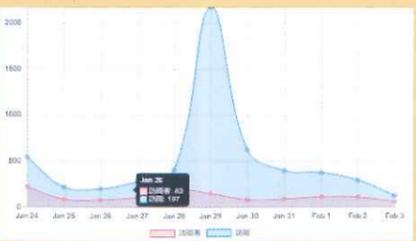


**布田小地区ハッピータウン協議会
 ホームページ**
<https://happy-usako.jp>



地区協議会は、その地域で活動している諸団体、ボランティア団体、個人有志の方々などが情報共有やお互いの助け合いを行うための起点となる組織です。そのために当地区協ではWEBサイトを充実させている。様々な発信をタイムリーにおこなっています。

自治会、小学校関連、児童館、社協、心の健康支援センター、包括支援センターなどなるべく多くの地域の皆さんに共通の情報を掲載しています。最近では平均200人ほどがサイトを閲覧しにきています。皆さまどうぞ1日1回のぞいてみてください。



毎日平均約200名がアクセス

Happy Town
 布田小地区ハッピータウン協議会

風水害防災情報関連リンク 10の筋カトレニング年間日程

お知らせ

- 2025年11月17日：地区協特別編纂会【11月30日(日) 子どものオーバードーズと薬物使用の現状を語る 布田小多目的室 13時～】
- 2025年10月01日：ハッピー10筋体操 布田小地区 2025 (R7) 年度 後編 (9月～3月) 日程 (月2回開催)
- 2025年09月30日：第26回 布田わくわくひろばまつり【10月26日(日) 10時～15時 調布市こころの健康支援センター】
- 2025年07月07日：第40回布田地区盆踊り大会【7月19日(土) 20日(日) 布田小学校校庭 17:30～20:00】
- 2025年02月07日：親子星空観望会【3月1日(土) 18時半～20時 布田小校庭 定員先着100名 対象：布田小に通う児童とその兄弟姉妹】

カテゴリー

- ▼ハッピー子ども食堂/EZYランチパック (一般公開)
- ▼地域包括支援センター/調布市社会福祉協議会/染地児童館
- ▼地域包括支援センター「とまわぎ園」
- ▼調布市社会福祉協議会
- ▼染地児童館
- ▼自治会/市民有志団体のひろば
- ▼布田南部自治会 (布田5丁目、布田6丁目各一部)
- ▼布田南部自治会 園遊会
- ▼桜丘緑会 (多摩川7丁目の東側)

2026年2月3日
 調布市児童部交歓フェア【2月8日(日) 12:45～16:30 グリーンホール大ホール】
 調布市内の各児童部のサークル仲間の発表会です。たいこ、ダンス、彈き語り、シャクリンなど15グループが出演します。染地児童館からはダンスチーム (第一部2歳組) の発表があります！ 日時：2月8日(日) 第一部：12:45～

2026年2月1日
 CoCoだより第109号 (2026年2月)【調布市こころの健康支援センター広報誌】
 内容盛りだくさんの8頁、毎月発行の広報誌です。主要のPDF版を掲載してご紹介します。PublisherCoCoだより第110号

2026年1月31日
 みまもつと便利2026年新年号【地域包括支援センター「とまわぎ園」】
 地域包括支援センター「とまわぎ園」の広報誌。2026年号です。年度末の開催イベントのご案内など掲載満載。どうぞご覧ください。詳細はこちらをご参照ください。みまもつと便利2026年新年号

「立てる・歩ける」
 「ユマニチュード」という医療・介護の分野で使われる「立てる・歩ける」という言葉は、人間らしさを取り戻すという意味のフランス語の造語で、人間としての尊厳、その人らしさを大切にするケアの技法です。それには「見る、話す、触れる、立つ」の4つの柱があり、特に「立つ」は一日に20分立つ時間を作れば寝たきりにならないとあり、自分の足で立ると、歩けることの素晴らしさを特に重要視しています。

私たちは普段の少しの意識と努力で高齢になってもこの「立てる・歩ける」体力を維持することが比較的容易です。なるべく歩く、階段を使う、体操教室を利用するなど皆さんご自身でできることがたくさんあります。ぜひ、ご自分から始めてみてはいかがでしょうか。

皆さんが愛するこの地域の願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるように、当地区協へのご理解とご協力のほどをお願いします。

布田小地区ハッピータウン協議会
 会長 依田耕児

楽しく体操いさいき健康
ハッピー10筋体操
 フレイル予防

2026年度前期(4月～9月)日程

4月10日(金)	24日(金)
5月8日(金)	22日(金)
6月12日(金)	26日(金)
7月10日(金)	24日(金)
8月7日(金)	21日(金)
9月11日(金)	25日(金)

ウォーキングドリル/リズムウォーミングアップ
 10の筋カトレニング/ヨガミッショントレーニング
 場所：布田南部自治会館2階
 時間：10時～11時半
 持ち物：肉履き(滑りにくい靴)、水分
 参加費：無料

3月4月の主な地域イベント

- 3月1日 三中吹奏楽部演奏会 布田小体育館
- 3月7日 親子星空観望会 布田小校庭
- 3月28日 ハッピーこども食堂 布田南部自治会館
- 4月25日 調布市防災教育の日 布田小ロータリー/体育館



運営委員募集中!

- ★年6回の運営委員会
- ★防災教育の日 避難所訓練
- ★地域の安全安心活動

お近くの上記運営委員にお尋ねください

はっぴーなきずな

大人になりますと学ぶ機会や新しい人と知り合う機会がグッと減ります。学ぶ事は大変な労力を伴いますし、人付き合いが面倒に感じることも多々あるかと思いますが、子供達を見習い、毎日何かにチャレンジする気持ちは大事なんだな！と感じる今日この頃です。

(布田小 PTA 吉実加奈)

布田・染地地域でインフルエンザが流行しています。手洗い、うがいを徹底して皆さん元気に過ごしましょう！

(染地児童館 益子昌弘)

※フレイルとは、加齢に伴い身体・精神・社会的な活力(筋力、認知機能、社会とのつながり)が低下し、健康と要介護の中間に位置する「虚弱」な状態のこと。早期に発見し、適切な運動や栄養摂取、社会参加を行うことで、健康な状態へ戻ることが可能な段階。

これからの地域福祉をリードする人財

今回の活躍人は、布田小おやじネットの代表を務められると共に、今年度からは当地区協会の監事も引き受けて頂いている室田信一さん。実は東京都立大学の准教授、それも人文社会学部人間社会学科の社会福祉学教室所属ということで、地域コミュニケーション活動とは縁浅からぬ専門分野。お話を聞き出したのは12月中旬の金曜日、「今日はリモートワークですから」と大学教授ではなく、おやじネットの顔で場をリラックスさせて下さった。

室田さんは社会学を米国ニューヨーク市立大学で学ばれた。なぜ日本ではなく、また当時は余り馴染みの薄い社会学？

室田さんはいわゆる氷河期世代の生まれ、1990年代のバブル崩壊後の厳しい経済状況下で高校卒業を迎え、日本の大学を卒業しても将来への展望は何も見えないと、大学進学を拒否されていたそう。ちょうど同時期、プロ野球の野茂英雄投手が、日本の野球界やメディアからの批判とバッシングを撥ね退けて米国メジャーリーグに入団し、一年目から新人王獲得の大活躍。途端にメディアも野球界も手の平を返したような賞賛の嵐。これを見ていた室田さんの心に、実力次第で認められたアメリカという国への興味が湧いたのだ。

大学への進学を拒否する室田さんに、ご両親も心配されたのは当然だろう。お父様の友人で米国ニュー

地域の活躍びと



春の運動会でテント張りとお片付け

Since 2007
布田小おやじネット
 活動紹介
 ~活動19年目~



室田 信一さん

(むろた しんいち)



~布田小おやじネット代表~

しかし現実には厳しく、ニューヨークの語学学校に通うだけで留学資金はたちまち底をつき、空港送迎などのバイトで生活を支える毎日。そんなある日、住んでいたクイーンズ地区の道端で多文化共生をテーマとするNPO(特定非営利活動法人)メンバーからインタビューされる形で接点が出来、これがその後の室田さんの人生の分岐点だったのだ。ボランティアとして地区住民どうしの相互理解を深めるための

ジャーニー州で起業されていた方々に招かれ、室田さんに紹介されたのだ。その方からのアメリカ留学という提案に、室田少年が「一も二もなく飛びついたのは言うまでもない。その時にご両親から提示された条件は、高校卒業後の一年間アルバイトで150万円ためられたら同額を積み増してあげるから、それを留学資金にしなさいというもの。優しくも堅実な室田家の人柄が偲ばれる。

今号の地域の活躍人は室田さんでしたので、布田小おやじネットの活動の様子を併せてご紹介いたします。ここに掲載した写真の他に、夏まつりでの会場設営や場内警備、冬の耐寒マラソンサポートなど、学校行事や地域活動になくてはならない存在になっています。メンバー同士はラインで情報交換をしながら無理のない範囲で活動に参加しており、子どもを通じてきた男の絆はなんとも熱く、充実したものになっています。

新春餅つき体験(家庭科室)

実際は餅つき器のお餅を食べています



動画作成プロジェクトなどでNPOを支援するうちに、コミュニケーション活動が好きになって自分を見せ、同時にバイトに明け暮れていた頃のうつむき加減の姿勢から、背筋がピンと伸びた感覚を持たれたそう。

学費が比較的安いニューヨーク市立大学ハンター・カレッジに入学される時に社会学部を選ばれたのも、修士課程への進学に当たって社会学部を専攻されたのも、きわめて自然な選択だった。卒業後、きっかけとなったNPOに就職したが、ニューヨーク同時多発テロに端を発して長期滞在ビザの取得が非常に難しくなり、2005年には帰国することになった。ほどなく研究会で一緒にいた方の紹介で、同志社大学の博士課程に進まれ、博士号取得後には東京都立大学で社会福祉学研究の責任を持たれることとなった。と、室田さんご自身は淡々とお話しされるのだが、渡米の決心から社会学への進学、心残りの帰国と研究者への道の重いつを一つ一つ取ったと思われた末の重い決断であったに違いない。

南大沢の都立大に通勤することになった室田さんが布田に引っ越しして来られたのは2015年。研究テーマがコミュニケーション組織や地域福祉



夏休みラジオ体操



秋のBBQ&飯盒炊飯&カレー

お子さんが布田小に通う現役のお父さん大募集中です
 布田小の素晴らしい子どもたちと一緒に
 楽しく活動しませんか
 おやじネット代表 室田まで
shin1m@gmail.com



餅つき体験で豚汁を仕込み中

であつても、転入直後で地域との接点が無い状態ではコミュニケーション活動をやりたいと出た来た室田さん、ところがお子さんが布田小に入学した途端「まさか情報風」と破顔一笑。「地域の人が実際にやっていると知ると、何々をやらねばならないと言った普遍的な正解が存在しないのが社会科学の世界なんですよ。」

それ以来、二回のおやじネット代表を始め、地域の一人としてコミュニケーション活動に携わって来られた室田さんに布田小地区についてお聞きした。「白山宮・自治会館という活動拠点があるし、男性ばかりでなく女性も子ども食堂を始め、活動のリーダーになって民主的な運営が行われている証拠だと思います。お祭りや地域運動会などは、コモンズ(共有資源)として地域の歯止めになっていますね。」

一方、PTAや自治会、あるいは労働組合など半ば強制的に入る組織は、活動への入口としての役割は十分果たしているが、社会環境の変化に応じて仕組みを刷新して行かないと縮小する方向にあると思う。それでも地域や福祉に興味を持つ若い人達、そして企業も増えてきている現状から、将来は明るい方向に変わっていくのではなかつて下さった。

室田さんの今年のエピソード、練馬で着物を着ていたの、一階に広いオープンスペースのあるご実家を、今年から活動の拠点に使ってもらうよう地域に開放されたこと。これこそ有言実行。

(取材・藤田秀雄)